



1. 全力で鬼退治 / 2. 豆を炒った香ばしい匂いが辺りに広がる / 3. 鬼が嫌いな「やいかがし(ひいらぎいわし)」の匂いを嗅ぐ / 4. かみしもを着た福の神が福を振る舞う

「五感で感じる行事を大切に」

2月2日、伏黒幼稚園で豆まき会が開かれました。園では「コロナ禍で行事が減る中でも、子どもたちに必要な経験を残したい。」との思いから、今年度も日本古来の季節行事を大切に実施してきました。年長の園児が豆を炒ったり、イワシの頭を焼いたりして準備を手伝いました。会では、66人の園児が鬼に向かって元気いっばいに豆をまき、怒りんぼう鬼や泣き虫鬼など、それぞれ自分の心の中にある鬼を退治していました。

市長コラム



第30回 災害への備え怠りなく

2月13日深夜、福島県沖を震源とする最大震度6強の地震が発生しました。この地震でけがをされた方、家屋などに被害を受けた皆さまに心からお見舞いを申し上げます。

市では、地震発生後直ちに災害対策本部を立ち上げ、被害状況の把握を進めるとともに、発生後の1時間半後には市内5カ所に避難所を開設しました。

また、市内各地で断水が発生したことから、翌朝の水利用に影響を及ぼさないように、職員が夜間に配水施設や配水管などを点検し、異常のないことを確認したうえで午前6時40分には市内全域で断水が解消されました。災害時において水の確保はとても重要です。市では老朽化した水道管などを順次更新しており、いつ発生するか分からない地震などで断水しないようしっかり対応しているところです。

また、地震発生後、特に重要なのが、道路の陥没や法面の崩落、河川やため池の亀裂や漏水、建物の傾きやクラックなど、命の危険に関わる事象の早期発見です。これについても、翌朝にかけて職員が市内全域をまわり、各施設の安全を確認しています。

さて、今回の地震は東日本大震災の余震とされていま

す。震災から10年が経過してもいまだに余震があることに驚かされましたが、地球規模で考えれば10年はあっという間。今も余震に対する警戒を怠ってはいけません。政府の地震調査委員会は、「少なくとも今後10年間は大規模な余震が発生する状況が続く」と言っています。実際に、2004年のスマトラ島沖地震(M9.1)では、震源付近で7年半後にM8.6、11年後にM7.8の大地震が発生しています。“大規模地震により陸側プレートのひずみが解放され当分は大きな地震はないのでは”との考えは間違いであることが分かりました。

深夜に発生した今回のように地震はいつ起こるか分かりません。停電で真っ暗、テレビからの情報も取れず、水道も止まってしまう。倒れた家具や散乱したガラス破片などで動けず不安な夜を過ごすこととなります。日頃から地震などの災害を想定し、家具や家電の固定、懐中電灯やラジオ、非常用飲料水の準備など、これを契機に次の災害への備えを怠りなくする必要があります。

今は、「災害は忘れずにすぐにやってくる」と考えなければなりません。

須田博行